

JAあつぎ
https://www.ja-atsugi.or.jp/
JAあつぎ 検索



▲JAあつぎ公式



▲農産物直売所「夢未市」



▲JAあつぎ公式「ゆめみちゃんねる」



▲農産物直売所「夢未市」

組合理念
夢ある未来へ
人とともに、街とともに、大地とともに...
(組合が存在する意義、理由、目標を表わしたものです)

JAあつぎは、組合理念のもと、「農業を軸とする地域に根ざした協同組合」として、支所店を中心にさまざまな事業活動を展開しています。准組合員の皆さまにおかれましては、当JAの事業をご利用いただくとともに、各地区で展開する協同活動にご参加いただき感謝申し上げます。地域の農とくらしをともに支えるパートナーである准組合員の皆さまが当JAの事業を利用していただくことは、厚木市・清川村の農業の発展に役立っています。准組合員の皆さまに管内農業やJA事業に関する理解をさらに深めていただくための広報紙として「Green Page」をお届けします。

一緒に学ぶ みんなの食料安全保障

どうなる？ 世界の「食」
どうする？ 日本の「食」

皆さんは「食料安全保障」について考えたことがあるでしょうか。難しい言葉に聞こえますが、子どもや孫の世代まで、食料の心配がない国にするにはどうしたら良いかという、日本の未来にとって重要なテーマです。今回は、現在の情勢をはじめ、私たちにできることなどを一緒に考えてみましょう。



JAあつぎ
代表理事組合長
大貫 盛雄



世界情勢の激変で、日本の「食」のリスクが拡大しています。

日本の「食」は多くのリスクを抱えています。中でも代表的なのが「食料自給率」の低迷です。日本の食料自給率は、わずか38%*。食料の約6割を輸入に頼っています。

そして今、日本の「食」は、ウクライナ情勢や急激な円安など、新たなリスクに直面しました。これまでも、異常気象などの影響で、世界の食料価格は高騰を続けていましたが、現在の社会情勢によって価格の高騰に拍車がかかっています。日本でも、さまざまな商品の価格が値上がりするなど、大きな影響を受けています。「食料は、安く、いくらでも輸入できる」。そんな時代は、もう過去のものになったと言っても過言ではありません。

*2021年・カロリーベース

生産資材の高騰で、日本の農業は苦境に立たされています。

世界情勢の変化は今、農業の現場においても大きな影響をもたらしています。肥料、家畜の餌となるトウモロコシや乾牧草といった飼料、燃料などの資材価格の高騰が経営を直撃しています。このままでは、農業の継続が困難になるという深刻な声も聞こえてきます。

しかし、この生産コストの上昇を、そのまま価格に反映できるかという、難しいのが現状です。

適正な価格で「国消国産」。
それが「みんなの食料安全保障」。

このままでは、農業の経営は立ち行かなくなり、日本の「食」の未来は見えてきません。生産者を支え、日本の「食」を未来につなぐために、農畜産物の適切な価格形成に向けた環境づくり、ルールづくりを模索するとともに、私たちもまた、日本の「食」と「農」を支えるため、意識を変えていくことが求められる時代になったのではないのでしょうか。

できるだけ国産のものを手に取り、食べることが、生産者を応援することにつながります。それが「みんなにできる食料安全保障」と言えるでしょう。

日本の「食」と「農」を未来につなぐ「国消国産」。

「国消国産」を実践していくことは、日本の農業に活力を与え、食料自給率の向上など、食料安全保障の確立につながることはもちろん、私たちの「食」の安心と、食卓を囲む笑顔がいつまでも続く、豊かな食生活の実現につながります。



10月は「国消国産月間」

JAグループは、10月16日の「国消国産の日」を中心に、10月を「国消国産月間」とし、日本の「食」と「農」についての理解醸成を図っています。

これを機に、自身で取り組めることを考え、「国消国産」を実践していきましょう。

国消国産
こくしょうこくさん

国民が必要として消費する食料は
できるだけその国で生産する

特設ページはこちら

食料生産を支えるあつぎの生産者 ～社会情勢の影響を受ける地域農業の今～

ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安など、社会情勢の激変による農業生産資材の高騰は、JAあつぎ管内の生産者にも大きな影響を及ぼしています。生産コストの上昇により苦境に立たされる中でも経営努力を続ける生産者に、地域農業の今について話を伺いました。



荻野地区
たくち あきら
田口 昭さん

研究と挑戦を重ね生産に取り組む

就農から13年目を迎え、パプリカやサツマイモなどの野菜を中心に年間約25品目を生産し、主にJAの農産物直売所へ出荷しています。日々の情報収集や研究会への参加などを積極的に行うことで、その年のトレンドや気候状況、消費者ニーズを把握し、新たな技術・品種への挑戦につなげています。今年ではアレッタ、プチペールの栽培や、緑肥の利用に向けた準備を始めました。

経験を生かし農業を取り巻く課題へ対応

生産資材の高騰に対し、農産物を同等に値上げすることは困難なため、生産性の向上や販売促進を通じた対策をしています。この際に役立つのが、作物ごとに作成している管理台帳です。生産に関わる事項を細やかに記録したデータをもとに作物の配置調整などを行い、作業効率の改善や収量増加を図るほか、生産する品種の検討と出荷時期の調整をすることで有利販売につなげています。消費者が求める品質・価格の農産物を届けるためにも、地域やJAと協力し、農業が抱える課題へ対応していきたいと考えています。



相川地区
おおぬき ゆうき
大貫 祐輝さん

家族とともに味と品質にこだわって栽培

23歳で就農し、厚木市戸田で家族とともに野菜、水稻を栽培しています。特に力を入れているのは、ハウスで育てるキュウリとトマト。キュウリは4～8月と10～12月、トマトは3～7月に出荷しています。JA農産物直売所「夢未市」や「厚木市民朝市」など、消費者から顔と名前が見える場所で販売しているため、味と品質にこだわった農産物を届けられるよう励んでいます。

肥料・燃料の高騰が経営に影響

通年使っている肥料はもちろん、12月にはキュウリ・トマト苗の加温が始まるため、燃料費高騰の影響を心配しています。肥料については、例年よりも堆肥を多く施用して低減に努めていますが、生育によっては追肥が必要になるなど、品質を保つためには欠かせないものです。燃料については、昨年度分はJAや行政の緊急対策交付金を受け取ることができましたが、コストの上昇をそのまま補填できるものではありません。苦しい情勢下ですが、私たちの農産物を待っている消費者のためにも経営努力を続けていきたいと考えています。

地域の「食」と「農」は私たちの手で守るべき！

みんなのよい食プロジェクト ～わたしのよい食は、みんなのよい食に、つながっている～

自分と家族のため、農業・地域のために、私たち一人一人にできることは何でしょうか？今、JAでは「よい食」をキーワードに、さまざまな取り組みを進めています。この「よい食」は、私たちが意識することで、持続可能な社会や環境にとっての「よい食」にもなります。ここでは、そのつながりや、私たちが取り組めることについて学び、「よい食」の実践につなげていきましょう。

朝からしっかり食べて一日を元気にスタート	「旬」のものを食べるとおいしくて栄養たっぷり
栄養バランスを考えて毎日健康な食生活を	農業体験や料理講習会で食と農の大切さを学ぶ

わたしと家族に「よい食」



料理講習会
食と農の大切さや地場農畜産物の魅力を伝えるため、大人・子ども・親子など、幅広い対象に向けた料理講習会を開催しています。地域の農業がもたらす恵みや郷土の味、食文化を知る機会になります。

農業体験
実際に土に触れ、植え付けや収穫を体験することで、大地が持つ豊かな生命力や、農業の楽しさ、大変さを実感する機会となります。食農教育事業や各地区での協同活動として、さまざまな農業体験が企画されています。



農業塾
地域農業の担い手育成と農業学習の場を提供することを目的に「農業塾」を開講しています。野菜作りのノウハウを伝えるほか、就農に向けたサポートを行うなど、地域農業の振興につながっています。

農業まつり
実りの秋に開催される農業まつりでは、地域の特色を生かした催しが企画され、生産者が丹精込めて育てた農産物が多く並びます。地域とのつながりを深めるとともに、地域の食や文化に触れる機会となります。



農業と地域に「よい食」

国産の農畜産物を食べて日本の農業を応援	直売所を利用して地産地消
農業を学び担い手の育成を	農業まつりなどに参加して地域の食や文化を学ぶ



フードバンク 食料品の寄付
SDGsの実現に向けた地域貢献活動の一環として、女性部では「フードバンクあつぎ」への食料品寄贈に取り組んでいます。活動を通じ、食品ロスの削減や、生活困窮者への支援などにつなげています。

持続可能な社会・環境に「よい食」

景観・環境の保全
農地は、四季折々の美しい風景を作るとともに、豊かな生態系を守り、さまざまな生き物を育みます。防災においても、農地は私たちが自然災害から守る機能を持ち、地域の景観・環境の保全に重要な役割を果たします。



食料自給率アップに貢献	地域農業・地域社会の活性化
農業・農村の持つ多面的機能を守る	SDGsの実現に貢献

地場農畜産物を買いに直売所へ出掛けよう！

JAあつぎでは、農産物直売所「夢未市」・「グリーンセンター」・アンテナショップ「Tomoni」内での「夢未市出張販売所」を中心に、新鮮で安全・安心な地場農畜産物を販売しています。店舗には、季節ごとにさまざまな旬の食材が並び、どれも生産者が愛情込めて育てたものばかり。地産地消の実践に向け、直売所へ出掛けてみましょう。

夢未市

厚木市温水255
☎046-290-0141
営業時間 午前9時30分～午後5時
休業日 毎月第3水曜日(3月・9月は第2水曜日) 8月・12月・1月は除くおよび1月1日～4日

グリーンセンター

厚木市及川1161-1
☎046-241-6150
営業時間 午前9時～午後5時
※精米機は午後4時30分まで
休業日 毎月第2水曜日(1月・5月は除く) 12月31日～1月4日

Tomoni 内「夢未市出張販売所」

厚木市泉町3-13 (厚木駅前農協会館1階)
営業時間 午前10時30分～午後2時
休業日 土曜日・日曜日・祝日・夢未市休業日

キトリセン

あつぎせせらぎ米 (4.5kg精米) 特別割引券 1,950円 → 1,650円 (税込)

有効期限: 2022年11月1日～30日まで有効 (但し土日・休業日を除く)
※夢未市・グリーンセンター・Tomoni内「夢未市出張販売所」でご利用いただけます
※1会計につき本券1枚限り有効 (コピー不可)

券を使う方に質問です! あつぎせせらぎ米を購入している理由は?(複数回答可)

A. 味が好み B. 価格 C. 地産地消 D. 食べ慣れている
E. 品種 F. 冷めてもおいしい G. その他()

※各店舗とも状況により営業時間が変更になる可能性があります

地域農業の振興に向けたJAあつぎの取り組み ～「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」としての役割～

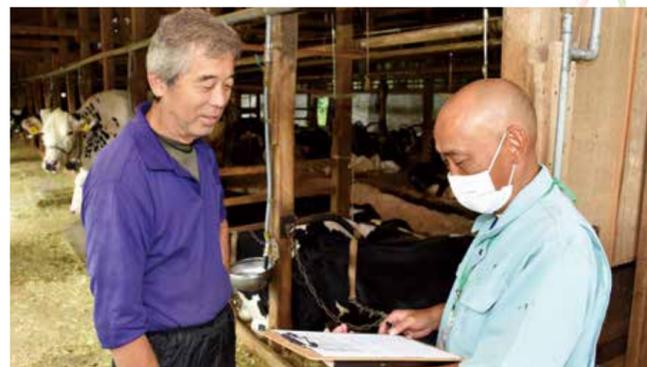
JAは、農業生産資材の高騰に対して、肥料原料調達先の多元化などにより安定供給を図るほか、国に対し緊急対策を訴える団体要請を行うなど、対策に努めています。JAあつぎでは、共に地域農業を支えるパートナーとして、生産者に対する支援など、さまざまな対策を行っています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。



委員会の代表者が厚木市長に要請書を提出

農業者の声を行政に

JAあつぎでは、営農と生活に関わるJAの基盤組織である「生産組合」や、若手農業者で構成される「青壮年部」と協力し、「農政対策委員会」を組織しています。「農政対策委員会」は、管内の実情に合った農業政策の策定を行政に訴えるため設立した組織で、地域を代表し農業者の声を届けています。毎年、厚木市・清川村の両首長と議長に要請書を提出しており、今年度は、農業生産資材の高騰に対し、中長期にわたる支援策の策定などを訴えました。今後も、食料生産を担っている農業者が安心して経営を行えるよう、社会情勢に応じた要請を行っていきます。



酪農家に飼料高騰の影響を聞き取り

総合的な対策で農業者をサポート

JAあつぎは農業生産資材の高騰に対し、管内の農業者を総合的な対策でサポートしています。特に深刻な影響を受けている酪農家に対しては、全戸に聞き取りを実施。乾牧草の価格が乳価の6割に達しているなど、厳しい現状を訴える声が相次ぎました。これを受け、飼料購入経費を助成金として補填するなど対策を図っています。肥料コスト高騰の影響を受けている米・野菜・花き・果樹農家に対しては、大口利用先への奨励措置の実施や、過剰な肥料を減らすために土の成分を分析する「土壌診断」を推進しています。



厚木市農業まつり畜産祭・収穫祭

厚木市農業まつり畜産祭・収穫祭を3年ぶりに一般来場者をお迎えした中で開催いたします。会場はJAあつぎ本所で、規模を縮小した中で1日のみの開催となります。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

日時 11月26日(土) 午前9時～午後2時 ※雨天決行 **場所** JAあつぎ本所

- 催し物**
- ◆農産物品評会(出品物の販売有り)
 - ◆各種販売(地場産米・豚肉・鉢花・日用品・食料品など)
 - ◆ガス器具展示予約販売会 ◆女性部バザー
 - ◆畜産パネル展示 ◆フォトスポット(大型トラクター)
 - ◆移動販売車「ゆめみちゃん号」
- 特典** ご来場時に右上の「プレゼント引換券」を受付にご持参いただくと「厚木地粉うどん」または「厚木産花苗」のいずれか1つをプレゼント。
- ※駐車場の数に限りがあるため、できる限り公共交通機関でお越しください

プレゼント引換券

※1家族1点限り
※数量に限りあり
※他の引換券との併用は不可

※新型コロナウイルス感染防止のため、会場内ではマスクの着用・手指の消毒・検温にご協力をお願いいたします
※コロナ禍における密を避けるため、当日の催しやタイムスケジュールが変更になる場合がございます
※飲食の提供およびキャラクターショーは実施いたしません

お問い合わせ
畜産祭・収穫祭
組織文化部(担当:組織基盤対策課)
☎221-6881
各地区農業まつり
最寄りの支所店へご連絡ください。

各地区農業まつり ※各地区農業まつりの催しや詳細については「支所だより」でご確認ください

<p>◎依知地区 第45回依知地区農業まつり 日時:11月13日(日) 午前9時～午後1時 会場:依知支所</p>	<p>◎睦合地区 第45回睦合地区農業まつり 日時:11月20日(日) 午前9時～午後1時 会場:睦合支所</p>	<p>◎玉川地区 第48回玉川支所農業まつり 日時:11月20日(日) 午前9時30分～午後1時 会場:玉川支所</p>	<p>◎相川地区 第47回相川地区農業まつり 日時:11月6日(日) 午前9時～午後1時 会場:相川支所</p>
<p>◎荻野地区 第46回荻野地区農業まつり 日時:11月13日(日) 午前9時30分～正午 会場:荻野支所</p>	<p>◎小鮎地区 第45回小鮎地区農業まつり 日時:11月13日(日) 午前9時30分～午後1時 会場:小鮎支所</p>	<p>◎南毛利地区 第47回南毛利地区農業まつり 日時:11月13日(日) 午前10時～午後1時 会場:南毛利支所</p>	<p>◎清川地区 第46回清川地区農業まつり 日時:12月3日(土) 午前10時～午後1時 会場:清川支所</p>

家庭菜園 ワンポイントアドバイス

プランターで育てるリーフレタス ~今からでも間に合う葉物野菜にチャレンジ~

今からでもチャレンジできる家庭菜園といえば、寒さに強い葉物野菜。中でもリーフレタスは、1枚ずつ必要な枚数をかき取って料理に使えるので、家庭菜園にピッタリです。1月下旬には外側の葉が収穫できるようになり、3月上旬まで収穫が可能です。

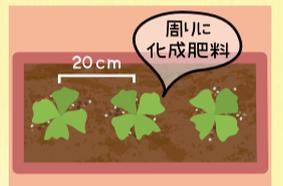
栽培の手順・ポイント

リーフレタスは、菜園だけでなく、プランター(長辺65cmの一般的なもので可)でも、比較的簡単に栽培することができます。今回は、育苗ポットとプランターでの栽培方法をご紹介します。

- POINT 1** 育苗ポットに8分目まで培養土を入れ、中央に5mmの穴を開け、種を4~5粒ずつ落とします。まき終わったら、周りの土を戻して軽く押さえ込みます。土をかけすぎると発芽しないので注意してください。
- POINT 2** 最初の水やりは土が流されないよう霧吹きなどを使います。その後は、土が乾いたら鉢底から水が浸みだす程度水やりをします。気温が10度を下回るようなら、割り箸などを立てた上から、軽く空気が抜ける程度の穴を開けたビニール袋を夜間のみかけてください。



POINT 3 本葉が2枚出たら1ポットあたり2本に間引きします。本葉が4枚出たら1本に間引き、プランターに20cm間隔で3株植え付けます。株元に化成肥料(窒素・リン酸・カリウム各8%)をひとつまみ施用します。その後も、3週間ごとに追肥を行います。



リーフレタスのガラスブーケサラダ

- 【材料(2人分)】**
- ・リーフレタス 2枚
 - ・キュウリ 1/4本
 - ・ミニトマト 2個
 - ・ハム 2枚
 - ・スモークサーモン 4枚

- 【作り方】**
- ①リーフレタスはよく洗って水気を切り、縦半分に切る。
 - ②リーフレタスをガラスに沿わせるように入れる。ガラスより長い部分は一口大に切り、中央に詰める。
 - ③ミニトマトは縦に1/4、キュウリは斜めに薄切りにする。
 - ④ハムを半分に切り、1枚ずつ端から巻いていく。
 - ⑤スモークサーモンを1枚ずつ端から巻いていく。
 - ⑥②のガラスに、③・④・⑤をバランスよく盛り付けたら完成。



お好みでドレッシングをかけてください♪

プレゼント応募 どなたでもご応募いただけます

質問 皆さんが好きな「秋の味覚」といえば何ですか?
応募方法 ハガキまたはFAX、ホームページにて①~⑦の項目を記載し、ご応募ください。
■ハガキ/右記の通り ■FAX/046-223-8814
■ホームページ/
<https://www.ja-atsugi.or.jp/form/greenpage/>
締め切り 2022年11月30日(水)

切手 243-0004
厚木市水引 2丁目9番2号
JAあつぎ総合企画部 グリーンページ プレゼントグッズ係宛

QRコードを読みとるとホームページの応募フォームが表示されます。
応募者の中からプレゼント
応募者の中から抽選で10名の方に夢未市等で使える商品券1,000円分をプレゼント! 当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。
※ご記入いただいた個人情報は、抽選、賞品発送に利用するほか、個人を特定できない統計情報として、マーケティング等に利用させていただきます

- ①回答 ②郵便番号・住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥当広報紙で取り上げて欲しい情報
⑦当広報紙へのご感想やJAに対するご意見・ご要望
※①~⑦すべてをご記入ください

さあ「国産」を、食べて応援!

JAタウンは、産地直送通販サイトです。「おいしい日本と暮らそう。」をテーマに、品質が良く、安全・安心な国産の農畜産物を産地から皆さまにお届けします。国産国産月間を機会にぜひ、JAタウンをのぞいてみてください!

「JAタウン」で旬の農畜産物を、今だけ送料無料で。

<https://www.ja-town.com/shop/e/ekokusho/>

期間 2022年10月13日から11月末日まで
※既定数に達した場合、早く終了することがあります



おいしい日本と暮らそう
JAタウン

